

「あおもりを愛する人づくり戦略」の推進に係る取組事例等について

資料4

1 人づくり戦略の推進に係る取組事例

構成団体名	実施主体・取組内容
No.1 青森県商工会 議所連合会	<p>【実施主体:あおもり検定実行委員会(青森県商工会議所連合会・青森県商工会連合会)】</p> <p>本県は、地理的・歴史的条件によって、大きく津軽・南部・下北と3つの文化圏に分かれ、各々が住む地域以外の歴史・文化などに触れる機会が少なく、よく知らないという方が多い。そこで東北新幹線新青森駅開業によって県民のおもてなし意識の醸成が求められたことを契機に、県民が青森県全体の歴史・文化・観光・自然に精通し、他の文化圏と併せて一体的に青森県の魅力を理解することのできるテキストブックを発行した。さらにテキストをもとにしたご当地検定を実施することで理解の促進を図り、青森県の魅力を発信できる人づくりを図っている。</p> <p>1 事業目的 青森県のことを正しく理解し、青森の魅力を発信するとともに、次世代に語り継いでいく人財を育成すること。</p> <p>2 事業内容 (1)あおもり検定公式テキストブックの作成・販売(平成20年4月発行) 東奥日報社から発売、約1万2000部の売上げ (2)検定試験の実施(平成20年度～) ①平成22年度は初級試験、中級試験、上級試験を実施 ②これまでに延べ1800名ほどの合格者を輩出。 (3)検定試験合格者による活動 本年度からインターネットによる情報発信の取組を開始した。(上級試験合格者から検定受検者へのアドバイスや青森の魅力を発信予定) (4)その他 本年度検定試験をあおもり県民カレッジ認定講座に登録した。</p>
No.7 (社福) 青森県社会福 祉協議会	<p>【実施主体:市町村社会福祉協議会】</p> <p>【広がれ福祉の輪学習会事業】 各種社会福祉施設(入・通所)での介護等の体験活動及び利用者との交流や、在宅での要援護者等との交流や在宅福祉サービス等の体験を、市町村社協を主体として行っている。</p> <p>【実施主体:市町村・市町村社会福祉協議会】</p> <p>【子どもほのぼの交流員の配置】 身近な地域社会の中で、幼いころから住民ボランティアと一緒に福祉活動を実践することにより、子供に福祉の心を育むとともに、地域全体で子供を育む機会を作っている。主に、独居高齢者宅等への訪問活動を実施。 22年度市町村(16箇所)で実践(八戸、黒石、五所川原、むつ、つがる、鱒ヶ沢、田舎館、板柳、中泊、鶴田、七戸、横浜、大間、佐井、三戸、五戸)</p> <p>【実施主体:県・市町村社会福祉協議会】</p> <p>【ボランティア推進校指定事業】 高齢者や障がい者等との交流活動や地域における福祉課題の発見、調査、体験学習等を通じて、思いやりの心や助け合いの心の醸成と地域社会における差別意識(スティグマ)の解消と社会福祉への理解を深めることを目的に実践している。 22年度の実施状況(県内221カ所の小中高を指定して、様々な実践活動を展開。)</p>
No.9 (社)青森県銀 行協会	<p>【実施主体:日本銀行青森支店】</p> <p>【出前授業】</p> <p>1 目的 児童に金融についての基礎知識を教える総合学習の一環 2 対象 県内小・中学校生 3 授業内容 ・正しい金融知識の習得 ・日常生活で直面する金融・経済に係る諸問題に対して、自己責任に基づき対応できる能力の育成 他</p> <p>【実施主体:青森銀行】</p> <p>【寄附講座】</p> <p>1 目的 地域の発展と産業の振興を目的とした大学・専門学校との連携協力協定締結に基づく金融経済教育の一環 2 対象 県内大学人文学部2年生以上を対象に実施 3 講座内容 県内経済の現状と地方銀行の役割 他</p>

構成団体名	実施主体・取組内容
No.9 (社)青森県銀行協会	<p>【実施主体:みちのく銀行】</p> <p>【夏休み親子見学会】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 目的 CSR活動の一環としての金融経済教育 2 対象 県内小学生 3 見学会内容 <ul style="list-style-type: none"> ・お金に関するビデオ上映 ・体験コーナー「お札の数え方」 ・地区センター及び本店営業部(貸金庫室)見学 ・金融・経済に関するクイズ大会 <p>【実施主体:全国銀行協会】</p> <p>【金融経済教育セミナーの地方開催】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 目的 CSR活動の重要なテーマの1つである金融経済教育教材の普及活動 2 対象 中学校社会科・家庭科教諭、総合学習担当、高等学校社会科・家庭科教諭 1地域30～50名程度 3 セミナー内容 <p>中学校教材「知ろう！学ぼう！お金の使い方」、高校生向け教材「ライフステージで学ぶ銀行」の2つの教材の普及推進を図ることを目的とした教育関係者向け全国地方都市セミナー(概ね2～3時間程度)</p> <p>【どこでも出張講座】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 消費生活センター、地方公共団体、学校等への講師派遣 2 テーマ <ul style="list-style-type: none"> ・金融取引の留意点 ・金融犯罪・偽造キャッシュカード ・金融商品・外貨預金 他 <p>【環境金融教育プログラム】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 目的 社会貢献活動の一環としての環境教育・環境意識向上を目的とした教育プログラムの開発 2 内容 <p>環境問題に深くかかわる金融の仕組みや、銀行の環境問題への取組についての周知(環境教育と金融教育を1つにした教育プログラム)</p> 3 今後のスケジュール 今年度から普及活動を実施
No.11 青森県小学校長会	<p>【実施主体:各小学校】</p> <p>各校それぞれが「人づくり」として特に力を入れている点</p> <p>生き方指導としてのキャリア教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自己決定能力の育成 ○体験活動と道德教育との関連強化 <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動の推進 ・自然体験活動の推進 ・ゲストティーチャーの積極的活用
No.15 (独)国立高等専門学校機構 八戸工業高等専門学校	<ul style="list-style-type: none"> ○平成20年度から採択されている文科省の「原子力人材育成プログラム」では、原子力関連分野の教育システムを構築し、原子力関連施設で中核的に活躍できる人財の育成に努めている。 ○(財)八戸地域高度技術振興センターからの委託により、「CAD/CAMシステムの基礎と実際」講座を実施し、地域の中小企業の機械加工技術の高度化と若手技術者の基礎技術力の向上を図っている。 ○(株)八戸インテリジェントプラザからの委託により、「シーケンス制御技術基礎講座」を実施し、製造業の人財養成及び人財確保のための支援を行っている。
No.16 国立大学法人 弘前大学	<p>青森県からの委託事業として、おもてなし能力の向上のなどをテーマに、観光人財の育成及び観光ホスピタリティ能力養成をめざし、「あおもりツーリズム人づくり大学『はやて』」を平成18年度から平成22年度まで継続して実施した。さらに平成23年度は、上記の後継事業として、地域の観光資源を発掘し、地域づくりに活用するための専門知識を持ち、具体的な事業を實踐していく観光地域づくりの核となる「企画・調整者」を育成するための「あおもり観光人財育成講座」を実施し、地域観光に必要とされる「人づくり」を推進している。</p>
No.17 公立大学法人 青森公立大学	<ul style="list-style-type: none"> ○青森県と協働で「あおもり立志挑戦塾」を実施している。 ○その他来年度に向け、検討中。

構成団体名	実施主体・取組内容
No.18 青森県PTA連 合会	<p>【実施主体:青森県PTA連合会 母親委員会】</p> <p>【青森県母親委員会研修大会の開催】</p> <p>1 目的 子どもたちを取り巻く教育上の諸問題及びPTA活動における母親の果たす役割や、子育てに関する問題について学び合う研修とする。</p> <p>2 対象 PTA会員(男女は問わない)</p> <p>3 内容 ・子どもたちを取り巻く教育上の諸問題 ・PTA活動における母親の果たす役割 ・子育てに関する問題 平成21年度のテーマ「メール、ネット上のトラブルの状況と家庭の対応について」 平成23年度のテーマ「子どもの力を伸ばす、家庭でのコミュニケーション」</p> <p>【実施主体:青森県PTA連合会 教育問題委員会】</p> <p>【県教育委員会との教育懇談会の開催】</p> <p>1 目的 学校教育に係る諸問題について、行政関係者、学校代表、PTA役員が学びあい、今後のPTA活動に資する。</p> <p>2 対象 県教育庁担当課職員、県小・中学校長会長、本会理事、常置委員等</p> <p>3 内容 学校教育に係る諸問題 平成21年度のテーマ「いじめの現状と対応について」「キャリア教育について」 平成22年度のテーマ「学校支援と地域との連携について」 「小中学校学習指導要領の改訂のポイントについて」 平成23年度のテーマ「災害から子どもたちを守るために」</p> <p>【実施主体:青森県PTA連合会 教育問題委員会】</p> <p>【教育問題研修会の開催】</p> <p>1 目的 学校教育に係る諸問題について、PTA役員が学び会い、今後のPTA活動に資する。</p> <p>2 対象 本会理事、常置委員等</p> <p>3 内容 学校教育に係る諸問題 平成21年度のテーマ「中学校を核とした小学校・地域との連携」～すこやかなネットの実績～ 平成22年度のテーマ「学校とのよりよい連携を目指したPTA」 平成23年度のテーマ「地域の人達を巻き込んで」～教育支援プラットフォームについて～</p>
No.20 (財)青森県体育 協会	<p>【競技力向上事業】 各種競技大会における競技力向上のための選手強化、指導者養成・研修事業を推進する等している。</p>

構成団体名	実施主体・取組内容
No.21 (特)あおもり NPOサポートセ ンター	<p>【実施主体:国際子ども文化芸術交流実行委員会】</p> <p>【主旨】 世界各国の子ども達と日本の子ども達が文化・芸術活動を通して、お互いの理解を深め、地球は一つ、世界は一つ、友達の輪を広めること。また、子ども達が明るく健やかに成長することは人類共通の願いであり、ステージを通して貴重な経験を積み、自己を確立、行動に責任を持ち、未来を担う若い「翼」達に、大きく羽ばたいて欲しいこと。青森県の子ども達の文化発展と芸術による国際交流を通して、子ども達の世界観育成を目的としている。</p> <p>【内容】 ○2009年7月5日「第1回国際子ども文化芸術交流Junior Artist Festival日韓交流」開催 弘前市民会館 入場料全席自由席 1,000円 出演団体 1.韓国果川市青溪初等学校 2.ダンスアイランドキッズ 3.豊田児童センター一輪車クラブ 4.弘前やまぶき会(手踊り) 5.アカネバレエ教室 6.小沢優璃バイオリン独奏 7.大成小学校伝統子ども琴の教室 8.五所川原市立金木小学校三味線部 9.弘前市中央公民館子ども小鼓クラブ 10.弘前ねむの会ファミリーコーラス「ノーザンウィング」手話ミュージック 11.弘前市立第二中学校合唱部 ○2010年7月4日「第2回国際子ども文化芸術交流Junior Artist Festival日米交流」開催 弘前市民会館 入場料全席自由席 1,000円 出演団体・個人 1.平川市・板柳町ALT・弘前英会話スクール 2.弘前大学留学生 3.アメリカンファミリー 4.三沢少年少女合唱隊 5.サムルノリ青森 6.弘前実業高校三味線クラブ 7.弘前大学附属小学校合唱団 8.田中みゆきピアノ教室 9.弘前市立第二中学校太鼓部 10.平川市平賀一輪車クラブ 11.弘前やまぶき会 12.伝統文化子どもお琴教室 13.ダンスアイランドキッズ</p> <p>【公演可能にしたのは】 実行委員会(2007年発足)の円滑な運営(主旨・組織・規約)と指導者の連携、ボランティアの連携・2008年前年祭開催、空気を熱く。異分野交流により出演者の友情を深める(前日コンサート、異種コラボレーション)・リレーチャリティーコンサートの開催により、指導者の連携をはかり公演資金作り・「翼」基金設立～青森県、弘前市民の理解、賛同、協力による。</p>
NO.24 青森県町村会	<p>※青森県町村会は、下記3団体の設立及び講演等を開催した際の講師に係る費用等の支援を行った。</p> <p>【実施主体:津軽地域づくり研究会】 平成20年11月29日設立 津軽地域の市町村職員、弘前大学院生及び弘前大学教授 檜 貢氏、丹野 正氏、佐々木 純一郎氏が会員となり、自治体職員と大学教員が実務と理論を癒合させることを目的とした自主研究会。</p> <p>【実施主体:上十三地域づくり研究会】 平成22年2月26日設立 上十三地域の市町村職員、上北地域県民局職員が会員となり、また青森公立大学 天野 巡一教授をアドバイザーに招き、自治体職員と大学教員が実務と理論を融合させることにより、自治体職員のネットワーク、政策形成能力の向上を図ることを目的とした自主研究会。</p> <p>【実施主体:下北地域づくり研究会】 平成22年2月27日設立 下北地域の市町村職員、下北地域県民局職員が会員となり、また青森公立大学 天野 巡一教授をアドバイザーに招き、自治体職員と大学教員が実務と理論を融合させることにより、自治体職員のネットワーク、政策形成能力の向上を図ることを目的とした自主研究会。</p>

2 人財育成について抱えている課題

構成団体名	課 題
No.1 青森県商工会 議所連合会	1 検定試験合格者を観光振興・青森の魅力発信のために活かしきれていない 2 受験者の減少による厳しい運営
No.3 (社)青森県観光 連盟	公益法人化に向けて、組織等の見直しを行い、組織体制の強化が急務となっている。このため、プロパー職員の県への派遣研修や市町村からの研修生受入、マーケティング戦略やチームマネジメント研修の受講、組織を越えたプロジェクトチーム方式によるイベント対応など、各種取組を行っているところである。
No.7 (社福) 青森県社会福 祉協議会	「1」の取組事例は、子どもから高齢者まで幅広い層を対象とした事業であるが、青森県内の少子高齢化が続く社会情勢の中で、特に重要なのは、未来を担う子どもたちに対し、地域における人とのふれあいや、様々な福祉活動に接する機会をどれだけ与えられるかが、今後の人づくりという面で重要となっている。 また、これらの事業を継続できる人財や財源の確保は、今後も継続する課題である。
No.20 (財)青森県体育 協会	優秀な指導者の確保、身体能力等に関する科学的な知見をより一層取り入れること、スポーツに親しむ雰囲気や環境づくりなど課題が多い。
No.21 (特)あおもり NPOサポートセ ンター	3月11日の東日本大震災による原発事故により、予定していた海外の小学校から、放射能の心配により交流が困難になった。来年、バリ島の小学校の交流を予定中。

3 青森県の人財育成の推進についての意見

構成団体名	意 見 内 容
No.1 青森県商工会 議所連合会	・県内各地で実施されている地域検定を「ふるさとに対する愛着と誇りをはぐくむ学習活動」の1つに位置づけ、児童・生徒が受験し合格した場合に、英語検定や漢字検定と同様に扱い、単位の認定、評価等への反映ができるような仕組みを作るのはどうか。 ・あおもり検定をはじめとする地域検定では、最難関の上級(1級)合格者が出ている。そういった方々は、青森県あるいは各地域の歴史・文化・観光・自然に関し深い見識を持ち、それを活かしたいと考えている方が多い。そこで、当連合会は、彼らの情報を集約し、郷土学習の講師や観光ガイドなどとして、必要としている方へ紹介する仕組みの構築を検討する必要があると考えている。
No.19 (社)青森県文化 振興会議	以前「盛岡先人記念館」の話から「郷土を愛することは、こうしたことから生まれるのではないかと」提言したことがあり、平成20年3月の東奥日報記事で「八戸市で先人資料を収集し、ネット先人館の開設を目指す」というような内容が掲載されていたが、広く県民から優れた人財を取り上げ、新しい人財の資料をそろえるよう渴望する。
No.20 (財)青森県体育 協会	スポーツ基本法が制定されたが、スポーツの果たす役割を再認識し、他県にひけをとらない選手の育成や広く県民一般の体力づくりなどが必要である。
No.21 (特)あおもり NPOサポートセ ンター	交流可能な海外の子ども団体の紹介をしてもらえる窓口が、県にほしい。

4 その他民間団体等の主な取組

団体名等	取組内容
協同組合青森卸センター	<p>【問屋町ビジネススクール】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●概要 <ul style="list-style-type: none"> ・平成23年10月より、青森初の常設の座学スタイルの企業教育研修・組織を開校。 ・企業の経営者及び中核人財の育成・確保や組織力の強化を図るため、階層別教育を中心とした様々な研修を開催し、企業力向上のキーとなるヒトを育成。 ・卸団地がこのような研修施設を独自で運営するのは全国で2例目。 ●目指す方向 <ul style="list-style-type: none"> ・マネジメントの質を向上 ～企業の組織力強化～ ・ビジネスのクオリティを向上 ～新たな付加価値創造～ ・卸売業の基盤強化 ～青森経済の底上げ～
株式会社みちのく銀行	<p>【みちのく銀行経営塾】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●概要 <ul style="list-style-type: none"> ・次世代を担う後継者、若手経営者を対象に、平成22年10月から1年間(全12回)開催。 ・受講者数22名 ・経営コンサルタントを講師に、企業経営の主要項目となる「財務」「事業戦略」等の講座の他、自社の経営方針書の作成を行うなど、より実践に即したカリキュラム。 ●目的 <ul style="list-style-type: none"> ・地元経済活性化に向けた取引先企業の経営強化 ・業種・地域を越えた同世代の経営者のネットワーク形成